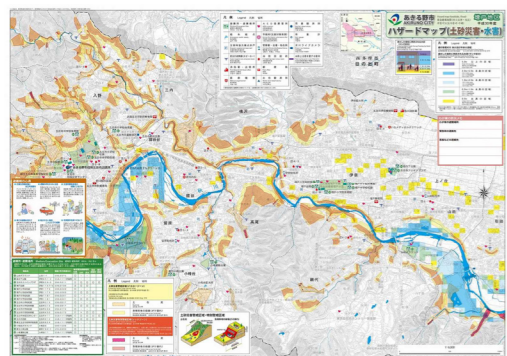


# 自主防災組織活動報告《網代自治会の防災活動》



増戸地区ハザードマップ

## 1 地形上の特徴

網代地区は、北は秋川に面し、南は八王子市に隣接する、山が多く緑豊かな地域です。

ハザードマップでは、土石流の危険個所を含む、がけ崩れが予想される急斜面を抱える土砂災害特別警戒区域が多く、令和元年台風19号の際には、土砂崩れの被害に遭われた住宅もあります。

## 2 災害に備えた活動

①自主防災会全員による年2回の街歩きと年4回開催する防災会議で、危険個所の確認と共有を図っています。

また、特別養護老人ホームとの合同防災訓練を実施し、消火栓からの放水訓練、避難訓練、煙ハウスの体験などを行っています。



②防災意識高揚のため、家庭訪問によるチラシ配布や、特別養護老人ホームとの「災害時相互応援協定」を結ぶなど、「安全・安心」をモットーに、「防災連携の絆」づくりを目指しています。

③防災備品の整備拡充に努め、全戸に防災リュックを配布し、自主防災員の意識を醸成するためスタッフベストを作成しました。また、無線機を導入し、防災訓練時に使用しています。



## 3 今後の課題と取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、市主催事業の多くが中止となっていることを鑑み、網代自治会行事と合わせて、防災訓練も中止しています。

しかし、災害は、コロナ禍でもいつ起こるかわかりません。災害の被害は、一人ひとりの備え次第で小さくすることが出来ます。日常からの準備が大切と呼びかけ、会員の皆様の防災意識の向上を図り、「あなたと、あなたの大切な人たちを守るために」を心がけ、今後の防災活動を進めていきます。



網代自治会長 細田 泰弘



# そなえ防災

あきる野市防災・安心地域委員会

令和3年 9月30日  
(第18号)  
発行責任者  
防災・安心地域委員会  
本部長 山崎 勇

## コロナ感染が広がる今、“自分の命は自分で守る”



防災・安心地域委員会  
本部長 山崎 勇

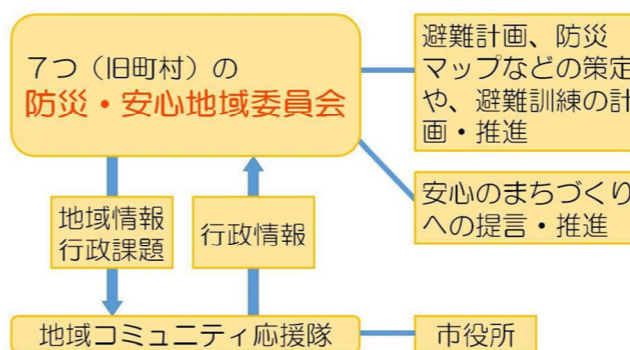
本年6月にあきる野市防災・安心地域委員会の本部長を仰せつかりました山崎です。前本部長の任期途中での就任になりますが、これまでの取組を継続して進めていく所存です。よろしくお願いいたします。

さて、防災・安心地域委員会は、町内会・自治会の自主防災組織を下支えし、地域防災力の更なる強化を市と連携しながら図っていくことを目的として、平成20年12月に設立され、今年で13年目を迎えました。

この間、市の総合防災訓練や各地域における防災訓練をはじめ、震災時の初動活動を競技化した防災コンクールを開催するなど、町内会・自治会の自主防災組織とともに、地域防災力の向上に向けて、地道な取組みに努めてきたところです。市民の皆様にも、防災・減災対策の重要性が浸透してきているものと考えております。

一昨年の台風19号では、浸水や土砂災害等の甚大な被害が発生しましたが、幸いにも人的被害は免れました。積み重ねた地道な取組みが活かされた結果だと思えます。

今はコロナ禍において、思うような活動ができない状況となっております。災害は時を選びません。コロナ感染が広がる今、“自分の命は自分で守る”を合言葉に、日頃のそなえと適切な行動で身を守りましょう。これからも、防災・安心地域委員会は、皆様と共に「安心・安全なまちづくり」に努めてまいります。



※地域コミュニティ応援隊とは市職員により組織されており、各地区の防災・安心地域委員会と協働して活動しています。

## あきる野市防災・安心地域委員会本部の活動

防災・安心地域委員会本部は各地区(7地域)の代表で組織されており、主に次のような取り組みをしています。

### 取り組み内容

- ① 防災コンクールの開催
- ② 地域防災リーダー育成事業
- ③ あきる野市総合防災訓練への参画
- ④ 女性の防災対策への参画促進
- ⑤ 防災・安心地域委員会本部機関紙(そなえ防災など)の発行
- ⑥ あきる野市産業祭への参加

防災コンクールの様子→



←産業祭のブースの様子



# そなえ防災を振り返ろう ～いつ起こるか分からない災害に備えて～

あきる野市防災・安心地域委員会では、平成25年2月から令和3年3月までにそなえ防災を17号まで発行しました。令和3年4月に各号の保存版の内容を7項目に編集し、「そなえ防災総集編」を作成しました。この冊子は町内会長・自治会長に配布し、市役所・五日市出張所・公民館・図書館・ふれあいセンターの窓口等にも置きました。

今号では7項目に編集した保存版について紹介しています。ぜひ、この機会に「そなえ防災」を振り返ってみましょう。



そなえ防災総集編

## 1 山村武彦氏の提唱する「近助」「互近助」「防災隣組」(そなえ防災第17号)

●防災は「自助」「共助」「公助」が基本と言われてきました。大規模災害が起きた際に、不特定多数の「みんな」より、家族・隣人・向こう三軒両隣など、近くにいる人が頼りになります。そのため、山村武彦氏は「近助」を加えることを提唱しています。他にも、そなえ防災第17号では防災隣組10カ条などについても掲載しています。

## 2 地震に対する備え(そなえ防災第1・4・7・9号)

●そなえ防災第1号では「地震に対する10の備え」を掲載しており、地震被害を軽減するための備えを10個のポイントに分けて紹介しています。また、そなえ防災第7号では「地震に対する10の備え」の内容をより詳細に確認していただくために、防災ブック「東京防災」の該当ページを掲載しています。

●大きな地震による負傷原因として多いのは、家具類の転倒・落下・移動によるものです。そなえ防災第4号では家具類の転倒・落下・移動を防止するためのポイントや、安全な家具の配置などについて掲載しています。

●そなえ防災第9号では「日常備蓄」について掲載しています。日常備蓄とは、大規模災害に備えて、自宅で利用している日用品や食料品を少し多めに備えることです。このほかにも、災害時に必要な物や備蓄品の例を掲載しています。



## 3 地震発生時の対応(そなえ防災第2・3・8号)

●そなえ防災第2号では「地震その時10のポイント」を掲載しており、地震発生時に取るべき行動を10個のポイントに分けて紹介しています。また、そなえ防災第8号では、「地震その時10のポイント」の内容をより詳細に確認していただくために、防災ブック「東京防災」の該当ページを掲載しています。

●そなえ防災第3号では「安否確認旗」について掲載しています。安否確認旗(右写真)とは、災害時に自宅の門扉や玄関に掲出して、自分や自宅の家族が無事であることを周囲の人に知らせることで、安否確認や人命救助につながる重要な目印です。玄関等のわかりやすい場所に大切に保管しておきましょう。



## 4 風水害について(そなえ防災第10・15・16号)

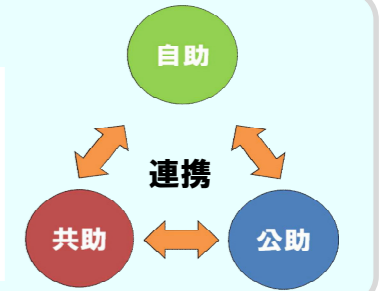
●令和元年東日本台風(台風第19号)は、多くの地点で記録的な大雨となりました。また、あきる野市でも、堤防の決壊や土砂崩れなど大きな被害が発生しました。災害時に自分の命を守るためにも、適切な避難行動が重要です。そなえ防災第10号では避難方法、そなえ防災第15号では避難するときのポイントについて掲載しています。



●そなえ防災第16号では、令和元年東日本台風(台風第19号)の経験を踏まえた風水害時の備えについて掲載しています。

## 5 自助・共助について(そなえ防災第11・12号)

●災害のそなえには「自助」「共助」「公助」の3つがありますが、その割合は自助7割、共助2割、公助1割と言われています。自分の力で自分の身を災害から守る「自助」、近隣や地域の人々が協力する「共助」が重要です。そなえ防災第11・12号では、それぞれの役割や取り組み方法について紹介しています。



## 6 ハザードマップを確認してみよう(そなえ防災第13・14号)

●あきる野市ハザードマップは、急傾斜地崩壊等の土砂災害の発生の恐れがある地区及び水害が発生する恐れのある地区を地図化したもので、被害の範囲や程度、避難所等の情報を地図上で確認できます。また、ハザードマップを活用する上で必要な情報収集や避難行動について、そなえ防災第13・14号で紹介しています。

## 7 災害に備えておきたい防災知識(そなえ防災第5・6号)

●そなえ防災第5・6号では、「避難情報の伝達方法」「避難時の心得」「雨の強さと降り方」「土砂災害の種類と前兆」など、災害時に役に立つ情報を掲載しています。災害が発生したときには、平常時からの備えが重要となります。「自分の命は自分で守る」という気持ちで、備えましょう。



今までに発行した「そなえ防災」と「防災Now」は、地域防災課の窓口や市のホームページでも確認ができます。今回紹介した内容以外にも、様々な防災情報を掲載しています。ぜひ、ご確認ください。

### 市ホームページ

(あきる野市防災・安心地域委員会機関紙「そなえ防災」「防災Now」)  
<https://www.city.akiruno.tokyo.jp/0000009286.html>

